

“旧”就職氷河期時代の  
“非リア”就活法

Snake



## はじめに

---

職氷河期よりヒドい「超氷河期」。

2009年から続く、景気の低迷は、2010年になっても、いまだ回復してません。  
経済不景気時において、企業は多くの人員を抱えることはできず、既存の正社員の雇用を維持しながら、採用人数を減らすことで人員調整をおこなってます。  
まさしく、戦後最悪の就職難となっています。

またインターネットの普及に伴い、さまざまな情報があふれていて、、、。

学歴は本当に重要なのか？

バイト経験やサークル経験は必要？

O B訪問は必須なの？

学生の名刺ってあり？

資格は必要？

今とは状況が異なりますが、1997～2005年にあった就職氷河期時代。  
その時代に行った。私なりの就職活動をまとめます。

これが、今、がんばっている人へのひとつの参考に慣れたら幸いです。

大学3年生 院1年生										大学4年生 院2年生				
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
業界研究/ネタ集め				エントリー										
				セミナー 説明会										
									試験/面接					
										内々定				

## スペック

---

理系。

男。

2c hではEランクと呼ばれる大東亜帝国出身。  
さらに、その中でも、レベルの低い学部学科。  
※同じ大学の大学院（修士）へ行き卒業。

在学中のバイト経験なし、サークル経験いっさいなし。  
単位だけは過剰にとってた。

コピペ通り、学生時代に打ち込んだこと「キーボード」な人間。

恋人なし（非イケメン）。

友達2人くらい。

新聞はたまに図書館で読む程度。  
TVニュースもあまりみなかった。  
面接前に、話題になってそうなのを、ネットで確認するレベル。

一応、名刺をつくってた。けど、就職活動にはあまり意味が無かったw  
※理系だと研究活動の一環でたまに使うけど。

理系だけど論文は、卒業論文と修士論文だけ。  
学会報告はマイナーなのを2～3件。（修士時代に）

これといった資格なし

高校のときにとった英検準2級  
デジタル技能検定 ビジネスユース初級 合格率75.4%  
CG検定3級 合格率60%  
マルチメディア検定3級 合格率60%  
普通自動車免許（オートマ限定w）

シスアド当時がんばってたけど3回落ちて、あきらめたw

このレベルでも、就職氷河期である03年に一応大手メーカーに就職。現在も、同会社。

10年度においても、残業なし、有給自由にとれる。賞与あり。サラリーマン平均年収くらいは稼げているくらいのレベルです。

エントリー確か、40社くらい。  
実際に受けたのは10~15社。(大、中小問わず)  
受かったのは2社。(うちひとつはアウトソーシング系)

当時もニュースで、100社受けて、内定がでない・・・ってニュースがあったので、あまり、チャレンジしてないほうかも。

就職活動 内定2年前にすること。

---

大まかな方向性を決めます。

「こんな感じの職種？」ってのだけ漠然と、、、そうすると今、どんな講義を受けておけばいいかわかってきます。

必修はもちろんのことですが、

※2009年以降の超氷河期でせつかく内定とっても単位を落として、内定取り消して話も多いです。

優先順位としては

必修科目、卒業を満たす為の単位科目（取りやすい単位）、  
興味ある職種に関係ある科目、趣味。

ってところでしょうか。

バイオ系職種なら、化学工学、環境工学

材料系系職種なら、有機や無機工学、

情報系ならシステム工学や通信工学、プログラム等、

他にも経営、経済、etc

大学って、本来なら勉強したい人が行くところですが・・・。

それは建前で、就職の通過点の機関です。

就職のことまず考えて、それから学部や単位科目を選ぶのが重要なんです。

あくまで個人的な意見ですが、彼女が欲しいとか、

お金が今すぐ必要とかそういう理由以外は「バイト」は不要です。

特に「就職活動」の為のバイトはよほどのことが無い限り意味がありません。  
しょせん、時間の切り売りでしかありません。  
商売すればわかりますが、バイトで社会勉強なんて片腹痛いです。  
(●´艸`・)ブツ

職人に弟子入りぐらいのレベルや、週末起業レベルなら話は別ですが。

結局、

①何ができるか？

能力・才能・できること。何が得意か？

②何ができそうか？

自分の能力から、関連することを何ができそうか？

③何ができないか？

能力的に出来ないこと。何が苦手か？

④何をやりたいか？何を求めるか？

動機・欲求・好きなこと。何がしたい？

※逆に何をやりたくないか？

って項目と会社の

A.何をさせたいか？

B.報酬

C.福利厚生

D.勤務地（転勤有無）

っていうのとマッチングが出来ればいいわけです。

しかし、就職活動をいざ始めるにあたって、

何も無い。もしくは、やりたいことがわからない。

では困るわけです。またやりたいことがあっても、能力が無いってこともあるわけです。短時間では準備できないことなので、これを2年くらい前から考えておきましょうというわけです。

早いうちから、社会で働く上で必要な力をつけるわけです。

(人-ω-)☆

尚、基本、筆記試験がある場合、勉強したらその分、有利になります。

が、上には上がいるものです。

正攻法なら、学歴の高い学校には勝てません。

ならせめて標準的な成績くらいを目指すくらいがいいと思います。

また、最近では終身雇用制度が崩壊してますが、仮に定年退職まで1つの企業まで勤めたとしましょう。

60歳まで勤めるとして、新入社員、大卒22歳と、留年して大卒30歳では勤続年数が異なりますよね？

そうすると、退職金が変わりますよね？

勤続年数が長いほど、そして職能が高いほど高額なるんで。

なので、生涯収入を気にするなら留年は控えたほうがいいです。

...φ(≧▽≦\*)

就職活動 内定1年前にすること。

---

就職活動 内定1年前にすること。

それは自己PRのネタを集めることです。

ここが手抜きだと、エントリーシート、小論文、面接に対しても、薄っぺらい感じになります。

例えば、

「リーダーシップがあって、。」

「積極性が、、、、、、。」

「コミュニケーション能力が、。」

「強い忍耐力があって、、。」

と自分をPRして、、面接官に

「……で？」

(; \_ \_)

と言われて終わる可能性が大です。

ネタを用意周到に用意しないと、まったく伝わらないわけです。

何をもって、貴方にリーダーシップがあるというのか？

貴方の積極性が、我が社にどのように影響するのか？

忍耐力があるから何なの？

となってしまうからです。

例えば、コミユカといっても。

- ・ 意見を言う。積極的に話し合う。
- ・ 報告をもらったあと、それを周りに連絡する。
- ・ 情報が与えられない場合、情報を貰いにいく。
- ・ 質問が何なのかを理解する
- ・ 話し合いで意見を求める。

とさまざまな形の、いわゆるコミュニケーションが存在します。

漠然とコミュニケーション力があるといっても、具体的に言わないと、伝わらないのです。

自分の勉強してきたこと、取得資格、活動内容を総動員して、自分を売り込むためのネタ作りをしましょう。

また、それを説得力ある構成で説明できるようにしましょう。

## PRのネタ作り

---

まずは自分の所属する学校のPRを調べましょう。

大学、専門学校のホームページなどの概要を読むといいでしょう。

学校の教育理念や、メリット、よその学校とは違う特色、特化していることが書かれているはず  
です。

また学部学科、ゼミ、研究室などの概要を調べると、より良いです。

実際は、近場だから、自分の偏差値レベルに合うから、学費が安いからといろいろな理由はある  
でしょうが、所属先の特徴を抑えることで、

自分はこのような理念で、このようなことに特化して学んできた。

というアピールができます。

どんな学校でも、組織として設立された以上、建前上は使命、目的、ポリシーなどを持っています  
。

このような文章をそのまま自分のPRに繋げるのです。

これなら、考えるのが苦手な人でも、自己PR作りのきっかけとなる部分ができます。

次に自分の学んできたこと、体験したことから、組み立てていきます。

何ができるか？

何ができそうか？

自分はどんな人間か？

そしてそれが、社会的に何の役に立つか？

貴方は役立つか？が一番重要だったりします。

やりがいとか、自分らしくとか、またこれは楽そうだとかやりたい職種も色々あるでしょうが  
、

社会人となるということは、世の中に関わる上で人の役に立ってお金をいただくという事です。

自分の持っている長所をどのように、

「御社においてこのように役立ちます」

と言えるようにもっていくかがポイントです。

ピンと来ない人のために自分の例を下記に示します。

バイトもサークルもまったく入ってませんでした。

勉強は単位をとる程度に広く浅く、なんか必要以上に過剰にはとったけど・・・。

材料系でいろいろな基礎単位科目ばかりとってたけど、有機化学、無機化学、物理学、機械工学とどれも詳しいわけではない。

中途半端に情報や電子系も勉強。いくつかの科目の単位もとったが、プログラミングは3回挫折。

資格はシスアド3回オチて、結局取得できず、簡単なマイナー検定をいくつかとったくらい。

遊び上手だったかというと全然。卒業旅行もしてないし、趣味はパソコンでネット。

友達や彼女もいないからコミュ力とか全然ない。

学会発表はマイナーな分野で2回だけ。これといった研究成果もなし。

けど、開発設計の仕事につくことができました。

で自己PRのベースはこんな感じ。

自分の所属する大学は、セメスター制度を導入しており、  
学生の科目選択自由度が高く、幅広い分野の科目を学んできました。

専攻は材料系ですが、無機化学、有機化学問わず学び、  
またシステム、情報分野についても大学で学んできました。

と幅広い分野で過剰単位のことをアピール。

これまでとった資格についてのコメントは、

マイナー系検定について軽く触れて、あとは現在勉強中と応える  
趣味はパソコンでサイト運営程度に応えました。

後は、前期情報分野と、材料分野を学んだ経緯やパソコン趣味から、

開発設計において論理面、物理面からの側面でうんぬんとかシステムユーザビリティがどうか  
アピール。

尚、専門家には無い柔軟さがともっておきました。

もちろん、他業種への自己PRは、、後半を変えています。

## 企業研究ネタ集め

---

さて後半をうまくアレンジしていくには、企業研究が必要です。  
行きたい会社、行きたい業界、やりたい仕事がどんな感じなのかを調べます。

とは言っても、世の中わからない業種で満ち溢れてます。  
まずは、就活生向けの業界研究本や企業の会社説明か、合同説明会など利用して、どんな仕事があるか自分なりにイメージします。

とにかく企業のホームページ、先輩の話、合同説明会、某匿名巨大掲示板、就活サイト、就活日記や会社の愚痴を書いている個人ブログなど何でも構いません。

また理系の場合は、その分野の技術展、エキスポとか学会とか、顔を出すのもいいでしょう。

面接のときの話の種や動機付けにもなると思います。

OB訪問も本音が聞けて、面白いと思いますが、不景気の中で、社員の苦勞話を聞いても、不安なだけだと思いますwww

ブラック企業の判断にはいいかもしれません。

尚、大手企業で1ヶ月で何回も試験を行っているような会社は、試験問題や、面接の質問事項内容があっという間に、ネットに出回ります。

私の時代（2003年）でも午前の部の試験が、すでに午後の部が始まる前に、掲示板とかに書き込まれてましたからね。

また 企業名 面接内容 などで検索かけると出てくる出てくるw

ネットすごいね。

\(´∀`●)／

この中で、自分にできそうな仕事、自分にはできなさそうな仕事を判断していきます。

自分の自己PRと、仕事内容をなんとなく、こじつけれそうだったら、候補としてあげてもいいでしょう。

例えば、機械工学を大学で学んだからといって、専門職に絞ることはありません。  
機械工学の知識を活かし、技術を紹介し、売り込むことが出来る技術営業職という選択もあります。

尚、面接などで「どうしてこの会社で働きたいの？」という質問は十中八九聞かれます。  
その時にはっきり応えられるように、色々調べておかななくてははいけません。

自分の働きたい会社のどんなところがいいと思ったのか、なぜその業界で仕事をしたいと思ったのかをはっきり答えられるようにします。

調べてわかるようなことは、一通り調べてください。  
調べていくと外部からはわからない疑問も出てくると思います。  
そのような項目もまたメモしておく、説明会や面接とかで役立ってきます。

逆にちょっと調べたらわかるようなことを、面接などで質問すると地雷になるので注意です。

尚、公務員試験準備 1年前から勉強を始める人が一般的だそうです。  
こちらは経験も無いので、他の書籍などで調べてください。

炎上には注意。ネット活用の落とし穴。

---

前期、企業研究ネタ集めのページで、

試験問題や、面接の質問事項内容があつという間に、ネットに出回りますので活用しましょう。

と書きましたが、ネットの情報とは、探し出すことができれば、基本的にすべての人々が閲覧できます。

もちろん、ライバルの学生はもちろん、面接担当者や人事部の人間もです。

つまり情報を得て、ただ安心するだけでは、周辺の人と同じような回答しか用意できず、また、応用的な質問にうろたえてしまう場合もあります。

もうひとつ、この記事を読んでいるかたに注意事項を。

自分が、ツイッター、タイムログなどのミニブログ、mixiなどのSNSなど、ネットを通じて、企業の内部事情を書き込まないことです。

先ほども書いたとおり、誰でも閲覧できるということは、面接担当者や人事部の人間もチェックが可能ということです。

企業からすれば守秘義務を守れない学生と判断されかねません。

また就職活動時期は、犯罪告白的なネタ日記などは控えましょう。

実際、SNSやブログが主流だった2007年前後、

- ・余計な書き込みを日記に書く

↓

- ・ 炎上

※炎上（えんじょう）とは、サイト管理者の意図する範囲を大幅に超え、  
非難・批判のコメントやトラックバックが殺到することである

↓

- ・ 個人情報を特定される

↓

- ・ 内定取り消し

っというコンボが多発しました。

（´・ω・`）

※詳細は、googleなどで、炎上 内定取り消し で検索してみてください。

自分が不利になるようなことは、しないほうが無難でしょう。

## コラム：学生に名刺っている？

---

結論から言えば、自分をつくってました。  
ほとんど興味本位でしたが・・・。  
自分で作れるってのが、なんか楽しくてw

つうか、理系だったのでね、自分。  
なんか機器メンテナンスとかの業者とやりとりするのに、連絡先かいた紙があれば便利だな程度に・・・。

あとは学会、技術者フォーラムとかね。聴講したあとの連絡先交換とか。

ほら・・・知らない社会人と携帯電話で赤外線するのもアレじゃない、想像するだけでアレじゃない？（何だよ？）

楽なんですよ名刺w

合同企業説明会で名刺を配ったこともあるけど、それほど役には立たなかったですね。

合同説明会では、よほどのコネクションがなければ、企業側が学生に名刺を求めているからですw まだ学生なのに名刺交換？何が目的なんだ？って普通は思われるでしょうね。

ただ、内定式でいろいろと同期入社の人と話したりしてたら4割くらいの方は作ってたよ  
うな・・・。

ようは、やりかただと思います。

名刺交換の目的がはっきりすればいいのですよ。

たとえば、名刺の内容ですが、

○○大学工学部××学科

名前  
e-mail  
携帯電話番号  
住所

表は日本語で裏が英語で書かれた名刺

だけでなく、研究室での研究内容や興味の方角、卒論のテーマ。  
話が広がるような、自分を売り込むようなポイントがあるといいみたいですね。

学生でも、学んだ知識を社会に還元している人は大勢います。  
あなたがどうであれ、「学んだ知識を世に還元していく為、人脈の大切さを理解している学生」っ  
ぽく自分を見せるのはありなのかなっと思います。

ただ、求められたら交換する、って程度でいいと思います。  
もしくは、会話の流れで、人脈をつくれそうなタイミング。

たとえば、説明を受けた後、いつでも相談、質問をうんぬん・・・となった場合などはチャンス  
です。

逆に、名刺を渡すことが目的になっては駄目です。

選考に有利だと思って、ということではなく、純粹に「人脈」ということを考えて、名刺交換と  
いう形がベターですが、、、。

担当者に「名刺を渡せば選考に有利に働く、と思ってやっているんじゃないか？」って思われて  
はマイナスです。

もし運良く渡すチャンスがあったら、交換する。

という心構えくらいでいいと思います。

なので、とりあえず作っておく分には、問題ないかと。

あと、就職活動者同士で、情報交換仲間として名刺交換ってのもありますから。  
どちらかというと、こっちのほうが、メインの使い方のような気がします。

まあ、携帯の赤外線通信でもいいですけどね

(-公- ;)

## コラム：もし運良く会社の人から名刺もらったら？

---

基本的に、就職活動で、企業側に自分の名刺がわたることは余りありません。企業側が、学生の名刺を求めてないからです。

無理やり不自然なタイミングで渡しても、

担当者に「名刺を渡せば選考に有利に働く、と思ってやっているんじゃないか？」って思われてはマイナスです。

では、もし運良く、選考に有利だと思って、ということではなく、纯粹にお互いの「人脈」ということを考えて、名刺交換という形になったとしましょう。

この場合のメリットを下記に示します。

名刺をもらえた場合は、連絡する許可を得た証拠になります。

- ・気軽に質問、相談ができます。

質問内容、相談の仕方によっては、他の人には無い情報が得られ、優位に立つことができます。

もちろん、あまり意味のない質問や、うざい相談は厳禁です。

面接と違って、メールはそれなりに考えて送信できますから、それなりの内容で質問してください。

適当な質問は、マイナスなイメージしかもたれないので注意してください。

- ・会ったその日のうちに、お礼のメールで感謝を伝えることができる

こちらは、それなりに有効かと思います。

絶対的なものではないですが、少なくとも悪い印象にはならないと思います。

運がよければ、よりよい印象をもたれるかと・・・。

新入社員、また中堅社員でも、その日のアポに対して、お礼のメールをだすといったことができない人が多いです。

人脈を大事にする視点で名刺交換をしたのなら、その日のうちに感謝の気持ちを送るのがマナーです。

内定時期から半年前にすること。

---

内定時期から半年前にすること。

実際に企業にエントリーして選考に進む期間です。  
早い企業だと冬くらいから選考が始まったりしています。

ただ選考の開始時期に関しては本当に企業によってばらばらです。  
スケジュールを調整してうまく予定を組まないと、  
いつの間にか選考を閉め切っていたなんてこともあります。

またペースに気をつけてください。  
100社の選考を受けるならば、100社についてこと細かく、100社分の企業の違い、特色、ポイント、それを踏まえた志望動機を応えられるようにしてください。

とはいっても時間は有限です。  
一つの企業に充てられる時間が少なくなります。

充てられる時間が少ないと、それだけ企業や業界情報や対策情報に乏しくなります。

個人的には、興味のある企業、関係会社を深く調べ、週1〜2社程度に狙いを絞った方が効率的だと思います。

また諸説いろいろありますが、1回くらいは面接練習用の企業も受けてたほうがいいと思います。

尚、面接練習がよくないという人の理由は、

自分が受かる気が無い企業は、面接にも雰囲気として表れるため、まったく練習にすらならず、時間の無駄という意見です。

私も確かにそう思います。

ただし、学生はそもそもそれほど、面接、面談という機会がありません。  
雰囲気味わうだけでも良しと思います。

また、面接の中には集団面接やグループディスカッションと言った形式の面接とか色々あります。  
やはり一度経験しておく、イメージがつかめると思います。

尚、企業によっては7次選考試験まであり、就職活動の世界において、面接練習用の企業として有名企業とかもあります。ぜひ探してみてくださいw

また、筆記試験なしで面接だけという企業もあります。  
これは、前に述べたとおり、基本、筆記試験がある場合、学歴の高い学校には勝てません。  
この場合は、選考基準も曖昧ですが、情報戦がものを言うと思います。

尚、私も、筆記試験なしで内定とりましたとさw

## コラム：知識の高学歴・コミュカのリア充にどうやって勝負する？

---

特に有名な大学出身でもなく、  
友達もぜんぜんいなくて、サークル参加もしてないのでコミュカも無い。

知識の高学歴・コミュカのリア充にどうやって勝負する？

まず学力や知識においては基本的に高学歴に適いません。  
専門的な知識が求められる筆記テストでは、十中八九負けます。

ならば、何を学んだか？研究内容、ゼミの内容で特色を面接で出す必要があります。  
高い専門知識ではなく、ユニークさで勝負するわけです。

もちろん、それが志望企業に還元できるような内容で無くてはなりません。  
しかし世の中には、直接お金になる学問だけではなかつたりします。

人文科学、理学、数学、心理学、考古学、歴史学、美学、漢文学、古典文学

なんかは、すぐに稼げる学問というわけでないので、  
志望企業貢献のアピールはしにくいと思われます。

※これもアピールの仕方だと思いますが、  
採用担当者が納得できるまでのストーリーを完成するのは至難かと思われます。

では、昨今、注目されているコミュニケーション能力はどうでしょう？  
やはり、DQNやリア充にかなわないのでしょうか？

※DQN：DQN（ドキュン）とは、日本で使われるインターネットスラング・蔑称の一つである。  
不良など、粗暴そうな風貌をしている者。

※リア充：リアル（現実）の生活が充実している人物を指すインターネットスラングである。  
恋愛や遊びの充実ぶりに対する妬みなどを表現する言葉でもある。

これは違います。

DQNの繋がり、コミュニケーションは、社会人には通用しません。

例えば、藤子・F・不二雄の漫画作品『ドラえもん』に登場する架空のガキ大将、ジャイアンこと剛田武（ごうだたけし）みたいな乱暴者は、腕力をもって、コミュニケーションを行ってます。野球の人集めや、自分の趣味である歌の披露を行うにあたり、無理やり場を仕切り、人集めをしています。

また友情を重んじる劇場版ジャイアンではどうでしょう？

腕力に加えて、義理人情をもって接しています。

しかし、企業は、腕力と義理人情で築き上げたコミュカを欲しがるでしょうか？

※一部営業さんは欲しがるかもしれませんが・・・。

ではリア充はどうでしょう？

恋や友情など充実してた人たちです。

恋人をつくり、大勢の友達と遊び、人と人の繋がりがしっかりしています。

これでもはっきり言って、これも多少有利程度の話だと思います。

社会人のコミュカが必要になるのは、リーダーとなって部下をまとめたり、客と交渉したりするときです。別に会社の人たちは、雑談で盛り上がりたいとか思ってるわけじゃありません。

会社で必要とされるコミュカは、マネジメント力の一つです。

スケジューリング、リーダーシップ、段取り、交渉、進捗管理、要員管理等です。

つまり、学生同士接してることが多い場合は、その培ったコミュカはそこではあまり役に立たないと思われれます。

もちろん、客先で些細なことで相手を怒らせたり、担当者や上司、部下と対話できないなんてのは論外です。とりあえず、自分の知っていることを面接官に理解できる程度に話す能力と、聞く能力があれば大丈夫です。

で・・・。

けど、緊張しちゃって面接でうまく話せない・・・だってオラ、コミュ力無いから・・・。  
友達いないし・・・。恋人だって・・・  
って思ってるあなたへ。

はっきりいって、日常会話のほうが難しいです。

お互いを知っている同士で、明確な目的がない話を持続して続けるよりは、まったく知らない人同士であるが、制限時間内に目的が明確としている話の方が、お互い会話しやすいからです。

そもそも、学歴・知識と違って、コミュ力というのは数値化できないので、よほど問題が無い限りはそこで明確に差が見えることはありません。

しっかりと会話の目的（情報収集と情報発信）を明確にしておくことによって、コミュ力があるっぽく見せることができます。

逆に、自分のリア充っぷりを面接官にアピールしても、マイナスになる可能性があります。

どのような情報を発信するべきなのか、収集するべきなのか？

そこをしっかりと抑えておけば、友達いない非リア充でも大丈夫です。

## コラム：面接のあれこれ

---

聞かれた内容について、知っていることなら答えたらいいです。  
知らんことや、今まで考えたこともないようなことは無理に応えない。

まあ、正確にいうと応えられないのですが、  
その場で機転利かせて上手いこと言えたらいいのですが、  
それができななのに無理しても、話が変わるだけです。

例えば、  
会社で交渉の場で、自分がわからないことを他社に約束することはできませんよね？  
普通に考えたら、。

適当に応えたら、会社に損を与えることになります。それと同じ、適当な発言は自分を不利にします。なら素直に謝って、応えないほうが無難です。

あと、面接対策の本やネットの討論では、

面接にて、正直に答える派といかにウソをつくか派に分かれますが、、、  
ケースバイケースだと思います。

ただ、面接官が良いほうに勝手に誤解する分には言いと思います。  
ウソは言っていないけど、向こうが勝手に思い込んで、自分のことを優秀と思い始めたらいいわけですよ。

詐欺の理論っぽいですが、そういうものです。  
( $\geq \nabla \leq$ )

最後に、、面接官に質問する場合は、  
前の章でも話しましたが、

調べてわかるようなことは質問しないことです。

もうひとつ、「はい」か「いいえ」でしか返ってこない質問は極力避けることです。

相手に具体的な説明を求めることが重要なんです。

企業の強さ、事業展開など、面接官がどう考えているのかを探るためです。

もうひとつは、「はい」か「いいえ」でしか返ってこない質問はあまり会話にならないことでしょう。

面接とは、人物像や能力を見たり聞いたりするために、直接会って対話などをする行為です。

情報交換できなきゃ互いに意味がないわけです。

自分が今知りたいこと、

今後、この業界に入っていくにあたって知っておいたほうがいいこと、、、。

まああとネットなどで噂される業界裏話的の真偽など・・・。

せっかくなので、根掘り葉掘り聞いてみるのもいいと思います。

1週間前にすること。

---

- ・ 企業情報の再確認
- ・ 使用する交通機関、所用時間の確認

主力製品の確認、行き先は地図や路線の乗換えなどの確認

- ・ 相手の連絡先  
万が一遅刻するときや緊急事態、すぐに連絡できるように

- ・ 自己分析

自分の分析結果の確認。

自分のキャラがわかっておけば、ぶれることもないでしょう。

- ・ 志望動機の整理

志望動機を説明できるように。

- ・ 履歴書、職務経歴書などの提出書類の作成、確認
- ・ 質問事項の整理

既に履歴書を提出している場合は、そのコピーを確認。

それに基づいて、どんな質問があるか予想して、応答内容を考えておきます。

こちらからの質問を確認しておきます。

- ・ 提出書類

企業によっては、

「成績証明書」や「卒業見込み書」や「健康診断書」を提出する場合があります。

- ・ スーツ、ネクタイ、シャツ等の用意

ハンカチなども忘れず。

シャツやハンカチがしわくちゃだったりすると、印象がちょっと悪いです。

あまり、まじめに考える必要も無いですが、極端にひどくないように。

- ・ 携帯電話の充電

これは説明するまでも無いですね。

- ・ 寝てください。

寝不足顔とか体調不良とか、、寝過ぎすとか。

夜更かしは、いいことないので、さっさと寝てください。

## コラム：志望企業の条件

---

志望職種から、最初に企業を選ぶとき、  
また複数内定した場合、そこから1社選ぶとき、

何を基準に選ぶべきでしょうか？

これはその人の生活や性格、就職活動状況によると思います。  
以下にポイントをまとめました。

### ・ 給料

就職先を年収で選ぶ。

自分の志望する業界、業種の平均年収は？

自分の希望する企業の年収は？

昇給率は？

会社業績や、成長率など確認。

### ・ 残業の有無

現場に近いほうは、残業が多い（サビ残含む。）イメージ。

※顧客スケジュール優先で納期厳守な為。

ただし交代勤務制度を導入していれば、  
夜勤シフトは存在しても残業はありません。

間接部門は、忙しい時期と楽な時期のメリハリがあるイメージ。

例えば、総務や人事なら採用時期。リストラ時期などは忙しいですし、

経理月は、末月初や年度末など繁忙期は残業となります。

研究開発は、明確な顧客がない場合は、残業は特になし。

自分のペースで時間を使い、仕事の成果をだせばいい感じ。

ただし海外ほどの個人プレーは許されず、会議、報告会など会社都合の時間は厳守。

また、大手や大手系列で監査がいろいろあるところは、残業管理がしっかりしています。

※サービス残業が原則出来ない。ただし納期が伸びるわけでもないです。

- ・勤務地や転勤の有無

業種上、転勤はあるのか？

転勤がある場合、

店頭、支店、工場、関連企業などの所在地の把握。

- ・福利厚生

各種手当て、社宅・寮、表彰制度など。

給料が低くても、手当てが厚く、結果として貯蓄がたまっていく場合もあります。

社宅や寮、住居に関する制度は、特に都市部では初任給の数割占める価値があると思います。

- ・職場の雰囲気

これは会社というより、部署や所在地、業種にもよると思います。

また直属の上司となる人の性格とか・・・。

例えば、飲み会や親睦会の回数とかさりげなく探るのもいいでしょう。

- ・やりがいか（笑）

やりたいこと＝仕事 　な人は、業種や仕事内容をよく考えて。

やりたいこと≠仕事 　な人は、まあそこそこに稼いで、休暇や有給取得率を気にしてください。

- ・スキルアップやキャリア形成。

会社が無くなったとき、転職できるだけのスキルをもつようなことができるか？  
よその会社での力を発揮できるだけの能力を構築できるか？

また、第一志望群の企業に内定をもらえなかった場合、  
転職前提で給料等のランクを落とし、スキルアップやキャリア形成を重視するのもあります。

極端な話、給料や福利厚生がイマイチで、雇用の安定しない派遣社員でも、

大手企業のシステム開発や、メーカー製品の開発設計、海外などに派遣され  
その企業の最前線現場の仕事に携わっておくと、必然的にレベルは上がります。

※ただし一般論として、企業は一人の新入社員の採用には膨大なコストをかけてます。  
社員教育や福利厚生、採用にかかわる入社案内や企業説明会のコスト、求人コストなど。  
転職するタイミングは注意しましょう。業種によりますが、一般的には3年以上勤めることで、  
実績があると見られます。

・ 知名度やブランド力

二つの意味がありますが、  
一つ目は、老若男女、一般的に知られてる企業。  
二つ目は、その業界では有名という意味です。

もちろん知名度が無いからダメというわけでもありませんが。  
一つの指針にはなると思います。

## コラム：留年？進学？専門？低ランク企業で我慢？

---

新卒であることは、日本国内では「一番有利」です。  
ゆえに就職浪人はものすごく「不利」となります。

その対策として、  
留年する、大学院に進学する、専門学校へ入学する、  
転職を前提して志望企業ランクを落とす。

といった手段が考えられます。

メリット・デメリットを考えましょう。

### ■留年

メリット：

- ・ 新卒カードが使えます。
- ・ 時間が稼げるため、その期間にいろいろ準備が出来る。

デメリット：

- ・ 留年自体が不利と働く、選考が進んでも同点なら落とされたりする要因となる。
- ・ 選考では、どうして留年したかの質問が中心となる。
- ・ 企業を納得させられる理由を用意出来なければ、何年留年しようと同じとなる。
- ・ また、余計な質問で時間が割かれる分、人物評価、自己PRの時間が減少する。
- ・ 定年退職まで1つの企業まで勤めたとし、勤続年数が短くなり、将来の退職金が減る。

### ■大学院に進学

メリット：

- ・ 新卒カードが使えます。
- ・ また学歴ロングリングが出来る可能性もある。

※18歳時に選択した進路よりも評判が良い大学若しくは大学院に進学すること。

- ・ 院卒という肩書きがつき、さらに難関の企業にチャンレジできる可能性も生まれる。

デメリット：

- ・ 勉強や論文執筆、報告する時間も必要となる。就活時間が学卒ほど自由に割けない。
- ・ 奨学金制度が取れなければ、個人あるいは家庭の経済的負担が増加する。
- ・ 難関の企業にチャンレジできる可能性が広がる一方で、  
専門性を求めない企業・業種は敬遠する場合もある。

- ・ 大卒と大学院卒の待遇差のある企業では当然ながら選考のハードルが高くなる。
- ・ 定年退職まで1つの企業まで勤めたとし、勤続年数が短くなり、将来の退職金が減る。

#### ■大学卒業後、専門学校へ。

メリット：

- ・ 新卒カードが使えます。
- ・ 専門性を高められ即戦力となりやすい。資格を取ることも可能。
- ・ 時間が稼げるため、その期間にいろいろ準備が出来る。

デメリット：

- ・ 大学は自分で勉強するところであり、なぜ卒業後に、専門知識を学んだのか？  
が質問が中心となる。
- ・ 企業を納得させられる理由を用意出来なければ、あまり意味が無い。
- ・ 普通は、専門学校でやるべきことも、大学時代にやっているのではないか？  
と思われる可能性がある。
- ・ 個人あるいは家庭の経済的負担が増加する。
- ・ 定年退職まで1つの企業まで勤めたとし、勤続年数が短くなり、将来の退職金が減る。

#### ■転職を前提とし、志望企業ランクを落とす

メリット：

- ・ とりあえず給料は貰える。社会人経験がつめる。技能習得が出来る。

デメリット：

- ・ ランクを落としすぎ、ブラック企業に入社した場合、実力がつかないときがある。  
また転職のための活動する時間が限られる。
- ・ 新卒では無くなり、各種経験者である既卒者のなかで選考となり、  
選考のハードルが高くなる。

メリットデメリットをよく考えて決めましょう。

おわりに

---

今、がんばっている人へのひとつの参考に慣れたら幸いですと執筆してから、  
数が月たちましたが、、、その間も、まったく景気は回復の兆しが見えません。

座る席が極端に少ない椅子取りゲームのなかで、どうやって席に座るか？

知識量なら、学歴の高い人間には勝てません。  
体力なら、スポーツ万能なやつには勝てません。

しかし、容姿端麗、高学歴、スポーツ万能のような生徒は一握りです。  
大抵は同じスペックのような並みの人間ばかりです。

完璧な人間に勝つ必要はありません。

同じスペックの人間達の中で、どうやって自分をアピールするか？  
他の人間との違いを見せていくか？  
地道な努力をしてこなかったものが、どうやったら勝つのか？

この本を読んでもくれた方々が、  
内定近道を探す方法のヒントを見つけることを祈っております。

なお、

当時サイトにアップしてた就活日記を再編集して載せようかと思いましたが、辞めました。  
今となってはただのネタ日記としかならないからです。

なるべく今のことがらでも通じそうな就活手順を書きました。  
しかしこれら方法も、しょせんは旧就職氷河期の方法です。

これらを踏まえて、自分で作戦を練り、就職活動に挑んでいただけたら幸いです。



## "旧"就職氷河期時代の"非リア"就活法

<http://p.booklog.jp/book/17125>

著者 : snaker

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/snaker/profile>

著作者のサイト : <http://www36.atwiki.jp/snaker/>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/17125>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/17125>